B-7　山元町笠野地区　　2012 年 11 月 23 日（金）

報告者名　稲澤　努　　被調査者生年　1956 年（女）
調査者名　稲澤　努　　被調査者属性　八重垣神社宮司（B-1・B-6・B-9 話者）
補助調査者　兼城　糸絵

お天王さま祭後の住民の感想

一言でいえば、よかったねというものが多い。一区切りついた感じである。地域の行事でもあるので、ひとつでも復活し、今まで通りできるというのは地域としてもうれしいと思う。

お天王さま祭時の海岸での神事

お神輿を休ませるところは正式には「御旅所（みたびしょ）というが、この地域の人たちは「おやすみどころ」ということが多い。海岸の「おやすみどころ」では、お神輿が無事についたこととあわせて、海上安全の祈願を昔からしていたのでそれも今回行った。そのあと、海へ向かって投げいれたものは、葦でつくった特殊御幣である。今年はしなかったが、普段は、葦の特種御幣を皆さんに配っている。それと同じものを 1 本持って行ってこの時にその葦を海に流す。昔は、この流した葦を、神輿を担いでいた人が争って取り、それを手にした人が「その年の幸福な男」ということだった。今は形態が変わり、今年もみな浜で見ているだけだったが。宮司が私の代になってからはもう争って取るようなことは既になかったが、母が宮司をしていたころはそうやっていたという。かつて、夏祭りが秋祭りになったころ（昭和 20 年代後半から昭和 40 年ころ）があり、その頃に形態が変化したのかもしれない。御幣を海へ流したあとは、担ぎ手は禊をかねて海へ入る。今はいろいろなところから来ているので、泳ぎの達者な人もそうでない人もいるが、昔は氏子の方々だけで、みな浜のものだからよく泳げた。ギャラリーが見ているところで、沖の方まで泳ぎ、いつまでも帰ってこない人もいた。みんなが見ていて気持ちがよいのだろう。お神輿に関しては、神様がいきたいといっているからしょうがない、ということで、担ぎ手は自分たちが神様の意を体現していると感じて誇らしげであった。なお、仮設住宅の「おやすみどころ」でもご祈祷はしたが、これはふつうの御旅所のご祈祷であり、特別なことはしていない。

お賽銭の中身

（神輿渡御の際には、いっしょにお賽銭箱も仮設住宅を回った。その際、住民の方はご祝儀袋に現金を入れて出すことが多かったが、中には、米や酒を入れる人が今回もいたことについて）かつては、ずっとお米で、各家が 1 升くらい出していた。今でこそ車で移動するが、かつては担いで回っていたので担ぎ手が軽いほうがいいと言い出した。本来は自由なものなので、品物は何でも構わない。ただ、いつだったか、地区の方々にできれば軽いものにしてくれと役員の方で申し出たらしい。それから御祝儀袋になった。25 年くらい前まではお米だった。現金へ変わったのは 20 年前くらいからのことだろうか。また、昔は農家が多かったが、今は少なくなったということも原因であろう。かつては自分のところのお米をあげていた。また、お酒もよく上がっていたが、それも少なくなった。

女性の神輿の担ぎ手

10 年ほど前だろうか、東北工大の女子学生から申し出があり、どうしたものかと考えたが、とくに禁止するきまりがあるわけではないので、OK した。その年の宵祭りで明日は女子学生も担ぐからと言ったら、それまで担ぐかどうか迷っていた男の子が「じゃ、おれ担ぐ」と。それが初めてではなかったかと思う。その後、被災の前年の

祭にも女性が担ぎ手として参加していた。ただ、この神輿は少し荒い担ぎ方をするので、担げると思ってやってきても、だめだったということが何回かあった。どの女性も地元の方ではない。

神輿の担ぎ手の主力

かつては、農協青年部が行っていたが、今は 4H クラブ（山元町農村青少年クラブ）である。今、笠野農協青年部は、2、3 人しかいない。農業をしていても青年部ではなく、4H クラブに所属する形に移行しているようだ。今回の担ぎ手のリーダーは、40 歳前後の S さんで笠野、あるいは山下地区の農協青年部リーダーである。そのほか、確実にわかる笠野の子は 4、5 人といったところだろうか。また、以前から毎年常陸那珂と塩釜から来ている方（友達同士）がいる。基本的に「来る者拒まず」という方針であり、誰が来てもよい。いつも名簿を出して担ぎ手に名前を書いてもらっていたが、今年は 4、5 人しか書いてくれなかったので、どんな方が来たのかよくわからない。私個人としては、御輿担ぎは、ボランティアではなく、ご奉仕だと思うので、「ボランティアさんが来た」という表現には違和感があるが、どちらにしても、皆さん楽しく担いでいたようでよかった。

褌の導入

お天王さま祭の写真が県政だよりの一面を飾ったことがあったが、それをみて塩釜と常陸那珂から参加したいと友達同士のお 2 人がやってきた。その方々が褌で参加するようになってから、担ぎ手の衣装が褌になった。それまではみな海パンだったが、2 人の褌を見て、「お、かっこいいな」と。それでみんな褌をするようになった。

お天王さま祭保存会

役場に手伝ってもらい会則を準備中である。総代会も承知済み。氏子区域が崩壊しているので保存会があったほうがいいと思う。地区内の赤坂に集団移転する 30 数件と、笠野の北側に家が少し残った壊れた家を修理して住むという家が 15、6 件くらいあるので、合わせて 50 件くらいが笠野地区内に残るだろう。保存会は、地区内に住んでいる人に限定するのではなく、お祭りを保存したいという崇敬者もいれての集まりとなる見通し。ただし、基本的には組織づくりなどは総代が主となって進める話なので、役員には総代たちに就任してもらおうと考えている。

新嘗祭

新嘗祭は神社で行う。ここ数年、総代 OB からなる顧問会も新嘗祭に合わせて行っている。ただし、去年は新嘗祭も顧問会もできなかった。ちなみに、総代をやめると自動的に顧問となる。顧問さんたちは、80 才前後の方。顧問たちの健康祈願祭も同日に行う。その際には、ナオライもして、これまでの活動やこれからの計画などを報告、相談し、何かあったら顧問さんにも手伝ってもらおうということである。今年は、今後の社殿の再建などの相談をした。

社殿再建計画

日本財団と宮城県神社庁、伊勢神宮の協賛で社殿を立ててくださるという話がある。それは伊勢神宮用の間伐材を使い、県内の被災神社に配るというものだが、各神社個別に設計、組み立てをするのは大変なので、共通設計図で、同じものを配ることになっている。隣の花釜地区の青巣稲荷神社は、この方式で社殿が建てられた（写真 1、写真 2）。ただし、総代や顧問の皆さんの意見では、もう少し大きいもののほうがいいという声が強いので、他の方法を検討中である。

二百十日（にひゃくとうか）祭

地区からの依頼で行うもの。今でも十何軒住んでいる人がいるので、やってほしいと区長さんから依頼があり、ご祈祷したお札を区長さんに渡すことになった。ただ、区長さんは現在名取に住んでいるので、今回は副区長さんにお渡しした。

写真１　青巣稲荷遠景

写真２　青巣稲荷新社殿

大阪の神社からの支援

ある会報に坂村真民先生の詩の２行を乗せたら、それが大阪の神職さんに伝わり、ここにお参りに来てくれた。その時に「何か手伝えることはありませんか」と相談があり、絵馬にしましょうということになった。真民先生は既に亡くなられているので、その娘さんにお話ししたら、絵馬は無料配布とすることを条件に誌を乗せる許可がでた。そこで絵馬を作成し、新年のお札をもってまわるときに、絵馬も皆さんのお家に配ることになった。300 ほどいただいだ。その神職さんのお話では毎年、震災で亡くなった方とほぼ同数の自殺者が出ている。そういうことも訴えていきたいとのこと。今回は絵馬作成費用と、神社に送ってもらう絵馬かけその費用を寄付でまかなっている。大阪の神職の方がネットなどで声掛けし、寄付を集めた。

正月前のお札配布。

12 月中に配布する。この辺の人たちは、それがないとお正月を迎えられないという。だから、年内でないとダメである。こちらで把握できない方はどうしようもないが、郵送ではなく直接家々を回る。神宮のお札と氏神さんのお札とご神像４枚を神棚に貼る風習がある。ご神像を貼るのは宮城県独自の新年の迎え方である。これを神棚と、台所に貼る。仮設住宅では大きいご神像を貼るスペースの余裕がないので、神社庁で考えてくれて去年からは普段の半分の大きさのものを配布している。

各家でのお札貼りとどんと祭

昔はお札を正月 14 日まで貼り、15 日にお焚きあげをした。今は一年中貼る人が増えた。年末の 28 日ころ、神棚のお掃除をして準備ができたら張り替える。貼る日について地域の皆さんがいうには、一夜飾りはよくないし、29 日は 9 がつくからダメとかいろいろな理由でそうなっているようだ。

去年はどんと祭はしなかった。風がなければ構わないが、神社の周りも枯草だらけだし、水道も来ていないので心配であるが、総代さんたちはどんと祭をやる方向で考えている。消火栓も近くにないし、被災前も火の粉が飛んだりしたこともあったので怖いところもある。総代さんたちは、みんながお札を八重垣さんに収めに行きたいといっているからと言っている。

まだはっきりやるとはいえないので、氏子の皆さんにはオカ通りなどの神社でもやっているとアナウンスはしているが、やるとなったらたくさん集まってしまうと思う。どんと祭をやるようになってからは 30 年弱、その前はしていなかった。はじめる当時、私の父が皆さんに周知していた。

鳥追い

「やーほいやーほい」という。どんと祭がなかったころ、農家などでは、お札をはずしたあと家の戌亥の方向にあるご神木にまきつけ、朽ち果てるまでそのままにしておいた。巻き付ける時、「やーほいやーほい」と掛け声を

かける。その後、農家も減って住宅事情が変化するなかで、そういったことはだんだんしなくなった。それでも、山下駅前の商店の 80 代のおばあちゃんは、まだやっているという話を聞く。

年越し

大晦日は去年も私は主人と神社にいたし、総代が 11 時ころからやってきた。今年（2012 年）の正月は大崎八幡宮から甘酒をいただいて振る舞った。毎年 12 時前に参道にならび、私がお祓いをして、時報とともに皆さん参拝される。今年も同じようにした。それが新聞に写真付きで掲載され、それを見て歌手の方がやってきて来て、境内に桜を植える話につながった。10 月にこの歌手の方と、その地元の都留市の高校の OB 会の方がやってきた。その高校の校歌は土井晩翠作で、晩翠の校歌を仙台で歌う会があり、その翌日に神社にやって来て、5 本ほど桜を植えていかれた。

今年も大晦日から元旦の夕方まで神社に滞在する予定である。元旦夕方に一時帰宅し、2 日は 10 時から 16 時くらいまでここに詰めようと考えている。2 日からは会社関係のご祈祷があり、朝早くは神社に来られないので、10 時ころということになる。

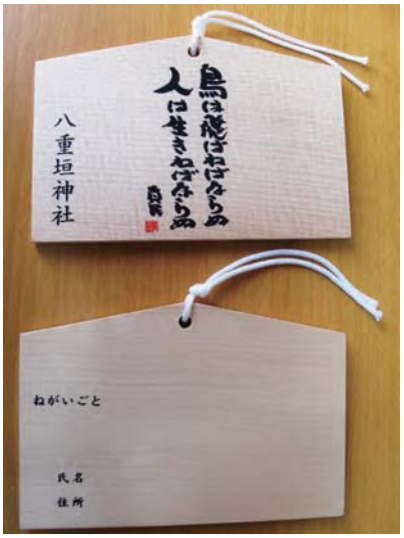

写真 3　八重垣神社で配布された絵馬